

# 文学館だより

令和6年3月1日  
若山牧水記念文学館  
TEL 0982-68-9511  
文責 日高 第95号

## 第28回 若山牧水賞受賞歌人 永田 紅(こう)さん 来県 牧水生家、文学館を訪問されました

2月 1日(木) 第28回若山牧水賞授賞式、受賞祝賀会  
2日(金) 宮崎県立延岡星雲高等学校訪問

### 牧水生家・若山牧水記念文学館訪問

受賞記念講演会 演題／「牧水と家族の歌」  
会場／日向市中央公民館

延岡星雲高校訪問を終えた永田 紅さんは、受賞記念講演会を前に東郷入りし、牧水生家ならびに若山牧水記念文学館を訪問されました。



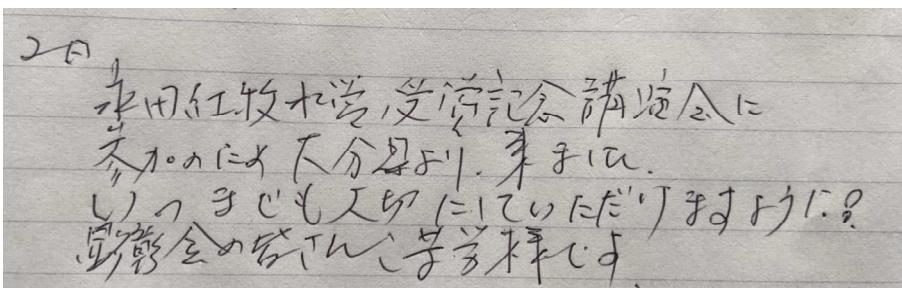
生家2階から尾鈴山を眺める恒例の一枚。  
(写真 左)

生家裏山歌碑に上り、当時の牧水を想像して  
か、何度も石に触れていらっしゃいました。  
(写真 右)

紅さんの横に写っているのは、紅さんの父、  
第3回若山牧水賞受賞者の永田和宏さんです。



### 生家に立ち寄られた折



生家ノートを手にされた紅さん。

紅さんも嬉しかったと思いますが、記された方も、紅さんの目に留まりよかったです。

そして、文学館へ。



到着早々、色紙に1首、受賞歌集にサインをいただき、できたてほやほやの展示の前で記念撮影。これまで受賞された歌人仲間のお一人お一人に目を通されていました。



牧水の展示室も廊下の展示も足を留めて見学され、熱心に向き合ってくださいました。

お母様の故河野裕子さん  
の直筆原稿に目を落とす紅さん。

両親と並んで若山牧水賞受賞者に名を連ねる喜びは計り知れないことでしょう。

父永田和宏氏 第3回受賞  
母河野裕子氏 第6回受賞  
初の親子受賞記録を刻むこととなりました。

授賞式より祝賀会よりニ次会が熱氣まさらむ顔紅にして  
伊藤一彦 (三世代のいちごつみ 2024. 1. 31 より)

宮崎に春兆すころ牧水賞授賞式あり梅ほころびぬ  
大口玲子 (ふらんす堂短歌日記 2024. 2. 1 より)

# 宮崎市 山田トシ子様「牧水と富士山水墨画」寄贈



山田トシ子さん

## 牧水と富士山水墨画親子展 卒寿記念

会期 令和6年1月23日（火）～1月28日（日） ※終了しました  
会場 宮日会館2階 パピルスギャラリー  
後援 宮崎日日新聞社

宮崎市在住の山田トシ子さん（90歳）と次女 三宅理恵さん（東京都在住）の初の親子展が開催されました。

「（略）卒寿と相成り人生の集大成の個展を「富士山」と決め、山梨・静岡を旅しました。沼津の「牧水記念館」で牧水が百三十首もの富士山の短歌（うた）を詠みつつ四辺の山々を歩いておられた事を知り、僭越ながら牧水の短歌（うた）に富士の風景を重ねてみました。また卒寿記念ということで初めて娘と共に個展を開くことになりました。（略）」（あいさつ文抜粋）

山田さんより、作品を文学館に寄贈したい旨の話をいただいており、展示会終了後、展示作品27点のうち、「牧水と富士山水墨画」10点（63×70）を寄贈いただきました。

山田さんは、私どもが主催する第5回青の國若山牧水短歌大会（平成27年）大賞受賞者で、牧水先生がご縁で今回再会を果たすことができました。

山田さん、ありがとうございました。



よろこびを吹き出すようなひょっこ踊りひょっこひょっこ笑ひはじける  
山田トシ子 第5回青の國若山牧水短歌大会大賞作品

## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

### たづね来て泊れる人をゆり起す夏めづらしき今朝の富士見よ

たづねきて とまれるひとを ゆりおこす なつめづらしき けさのふじみよ

大正10年作。第14歌集『山桜の歌』に「夏富士」と題し、富士山を詠んだ歌が7首並んでいます。この歌はその中の1首。

大正9年、静岡県沼津市に転居した牧水。そこは海岸沿いに美しい千本松原が広がり、朝夕富士山を眺めて暮らせるところでした。牧水は、富士山を詠んだ短歌を130首、富士山を記した隨筆を7篇、紀行文を4篇、童謡を3篇残しています。（『牧水 富士山』公益社団法人沼津牧水会参照）

（単行本未収録）  
ほんぽん叱つて下さるな  
ほんぽん  
百本千本一万本  
田子の松原三保の松  
富士の木十本二十本  
松の木一本二十分  
百本千本一万本  
ほんぽんあがるは揚花火  
龍のゐるのは富士の山  
富士の山から下見れば  
あがつてはじけて下り龍

子守唄



## 牧水生家花壇が精美されました

日向市ボランティア、社会福祉協議会、坪谷石原地区のみなさん、ありがとうございました。